

第 **184** 期

**BUSINESS REPORT**

平成18年4月1日 ▶▶▶ 平成19年3月31日

 **Kawasaki**



川崎重工業株式会社

証券コード：7012

■ 単独 ■ 連結  
■ 単独(当期) ■ 連結(当期)

## 売上・利益とも過去最高を更新! 4本の柱と位置付けた事業の順調な伸長、 構造改革の着実な進捗により、中期経営計画 “Global ”の初年度は好調にスタート

### ■ 当期のポイント

#### ■ 経常利益は490億円と前期より58%増加

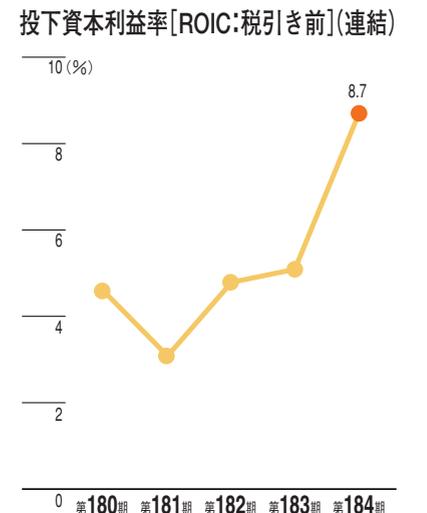
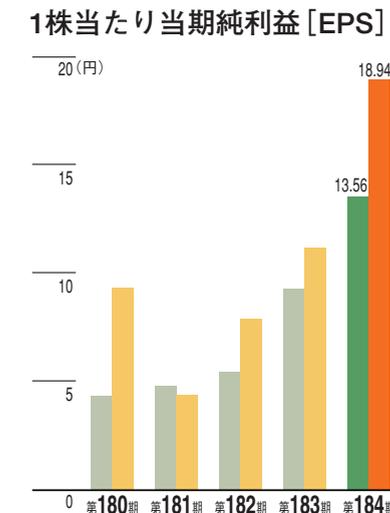
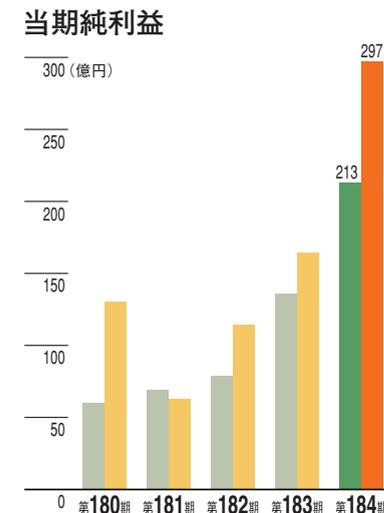
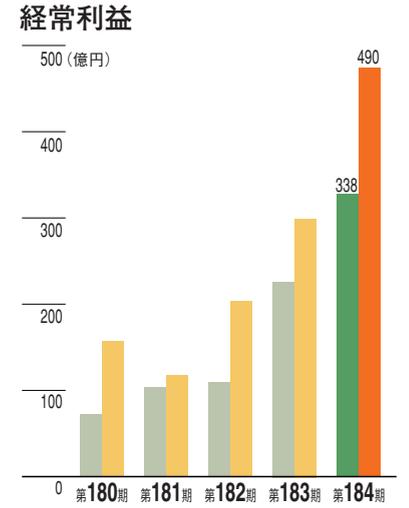
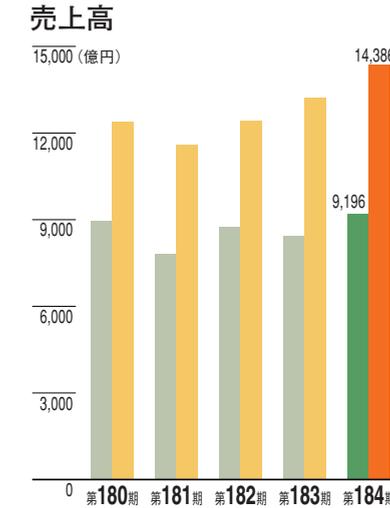
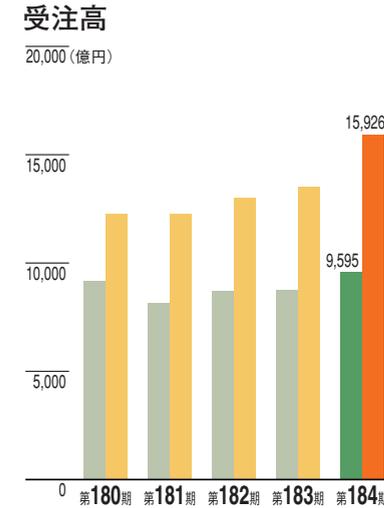
■ 汎用機事業・車両事業が大幅増益、  
プラント・環境・鉄構事業が大きく改善

#### ■ 当期純利益は297億円と前期より80%増加

■ 経常利益の大幅増により純利益も増加、  
特別損失については37億円を計上

#### ■ 有利子負債は6期連続の減少

■ 持続的成長の確立に向けた投資を拡大しながらも、  
資金効率の向上などにより、6年間で約1,900億円の減少



# 中期経営計画“Global ”の達成に向け、企業価値の向上に取り組みます

盛夏の候、株主のみなさまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

川崎重工グループ第184期(平成18年度)BUSINESS REPORTをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

## 【当期の営業概況】

当期における経営環境は、個人消費や輸出の増加、企業収益の拡大による民間設備投資の増加により、国内景気は概ね拡大基調で推移するとともに、海外においても米国で一部減速感はあるものの、欧州や中国・アジアを中心に景気は総じて堅調に推移しました。しかしながら、素材価格の上昇及び外注費の上昇、大幅な株価変動や不安定な為替の動向など、当グループを取り巻く環境は予断を許さない状況が続きました。

このような経営環境の下、当グループは積極的に事業活動を展開し、売上高につきましては、航空宇宙事業、汎用機事業を中心に増加し、1兆4,386億円と前期を1,161億円上回りました。

利益面につきましては、引き続き経営全般にわたる収益改善諸施策を積極的に推進した結果、経常利益は490億円と前期を181億円上回りました。

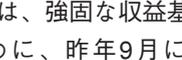
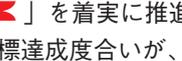
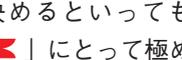
特別損失につきましては、訴訟損失引当金など37億円を計上いたしました。これらの結果、当期純利益は297億円と前期を133億円上回りました。

また、当期の単独業績につきましては、売上高9,196億円、経常利益338億円、当期純利益213億円となりました。

配当方針につきましては、内部留保の充実に配慮しつつ、業績に見合った配当を安定的に継続することとしております。この方針に基づいて総合的に勘案した結果、前期より2

円増額し、1株あたり5円を配当することといたしました。

## 【経営戦略】

当グループは、強固な収益基盤を確立し、持続的な成長を果たすために、昨年9月に策定した新中期経営計画「Global 」を着実に推進してまいりますが、特に平成19年度の目標達成度合いが、「Global 」の達成可否の大筋を決めるといっても過言ではなく、本年度は「Global 」にとって極めて重要な位置付けの年であると考えております。

このため、前中期経営計画からの施策である「質主・量従」「選択と集中」を引き続き徹底することを大前提としたうえで、次の3点を平成19年度の重点方針としております。

### (1) 持続的成長サイクル確立に向けた改革の継続

- ①グループ全体での開発・生産販売体制の効率化、
- ②為替変動に強い事業体質の構築、③経営資源としての「人」にかかわる諸問題の解決、などの事業体質の強化を目的とした改革を推進していきます。

### (2) 収益力の向上（収益率重視型の経営）

- ①技術力・非価格競争力並びに営業力の強化、②高操業への的確な対応、③資材費低減などコストパフォーマンスの向上、④経営効率化による固定費の削減、などにより個々の事業・製品・プロジェクトごとの収益率向上に努めます。

### (3) 資金効率の向上

- ①運転資金の圧縮、②重点投資の実施、などにより有利子負債の圧縮を図ります。

次に、セグメント別の経営戦略という面では、それぞれの事業における将来ビジョンを明確にし、経営資源を将来

性のある事業・製品分野に集中していきます。まず、4本の柱と位置付けている事業分野ですが、車両事業では、国内に北米とアジアを加えた三大市場での事業運営体制の強化を図っており、航空宇宙事業では、次期固定翼哨戒機・次期輸送機開発やボーイング787開発・生産などの大型プロジェクトを推進しております。また、ガスタービン・機械事業では、需要拡大に伴い民需航空機用ジェットエンジン、産業ガスタービンなどの開発・生産設備を拡充しており、汎用機事業では、先進国向けモーターサイクルを主力・最重点事業として、事業規模拡大・収益性向上、製品競争力を高めるため、グローバルレベルで開発・生産体制の強化を図っています。

一方、育成事業と位置付けているエネルギー・環境関連事業の母体となるプラント・環境・鉄構事業は、この数年間抜本的な構造改革に取り組んでおり、プラント、環境事業については、本年4月、それぞれの分社会社の合併により、「エネルギー・環境関連事業」の母体の一つを構築し、第5の柱とすべく育成を加速させてまいります。また、鉄構事業については、徹底したスリム化とLNG関連事業などエネルギー・環境関連の成長分野の強化を内容とする事業の抜本的見直しを進めております。

## 【コンプライアンス（法令遵守）】

以上のような事業活動を行ううえで、コンプライアンスが大前提となることはいうまでもありませんが、残念ながら事に、本年1月には鋼鉄製橋梁の、同3月にはトンネル換気設備の独占禁止法違反に関して、国土交通省より建設業法に基づき、一部建設工事業種について営業停止処分を受けました。これまでも当グループは「違法行為は絶対に起こさ

ない」ということを企業運営の基本とし、企業倫理に関する社内規則を整備したうえで、階層別教育の実施や、各種ガイドブックを配付するとともに、各組織での法令遵守自主点検委員会の設置など、遵守すべき各種法令等の内容について周知徹底を図ってまいりました。さらに昨年10月に内部統制・コンプライアンス・CSR推進のグループ統括組織として新設されたCSR推進部を中心に従来の活動を一層強化し、さらなるコンプライアンスの徹底に組織的に取り組んでおります。

今後とも、常に情報開示と透明性を最優先する企業風土の改善に努めてまいります。

当グループは、このように事業全般にわたって、収益力の強化や事業構造改革のための諸施策を着実に実行し、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」を目指し、企業価値の向上に取り組んでまいり所存でありますので、株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

取締役社長

大橋忠晴

(おおはし ただはる)



## 当期の概況



LNG運搬船「ARCTIC VOYAGER」

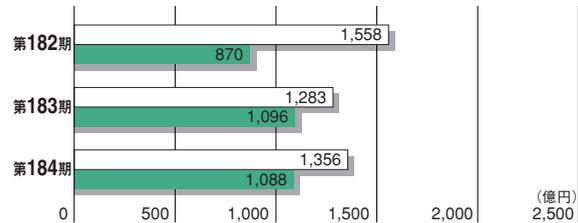
受注高は、LNG船3隻、LPG船2隻、ばら積み貨物船8隻を受注したことにより、1,356億円となり前期より増加しました。

売上高は、LNG船、大型タンカー、ばら積み貨物船、潜水艦などを売上に計上し、1,088億円となりほぼ前期並みとなりました。

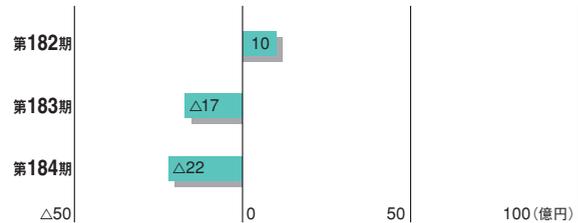
営業損益は、資材費上昇の影響などにより、22億円の損失となりました。



□ 受注高 ■ 売上高



■ 営業損益



## 船舶事業のプロフィール

船舶部門は、(株)川崎造船が担当しており、これまでの豊富な建造実績から、その専門技術と製品の信頼性に対し高い評価を得ています。

LNG運搬船、LPG運搬船、VLCC、ばら積み貨物船などを坂出、神戸両工場で建造し、素材、エネルギー、製品などの海上輸送手段を提供することにより、世界経済の発展を支えています。さらに、神戸工場では潜水艦の建造・修理を手掛け、国防の一翼を担っています。また、中国南通市において船舶建造事業を営む合弁会社(NACKS)を運営しており、事業の伸長に合わせて第2期拡張工事を進めています。

今後も船舶の設計、建造、品質保証に必要な技術に一層磨きをかけ、事業の持続的発展を目指します。

VLCC「ASIAN PROGRESS IV」



潜水艦「もちよ」

## 当期の概況

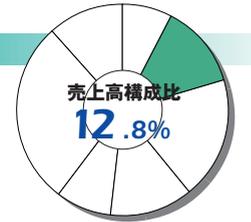


東日本旅客鉄道株式会社向けE233系車両

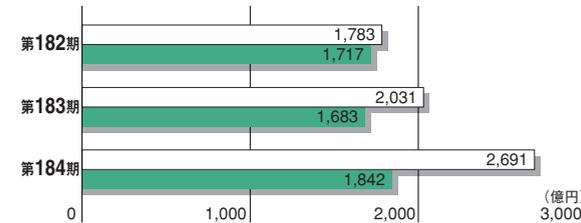
受注高は、国内向け各種車両、北米向け通勤車両などの受注により、2,691億円となり前期より大幅に増加しました。

売上高は、国内向け各種車両の納入はほぼ前期並みであったものの、海外向け地下鉄電車及び北米向け建設機械の販売が増加したことなどにより、1,842億円となり前期より増加しました。

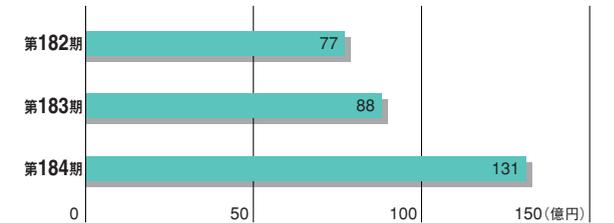
営業利益は、売上高の増加に伴い、131億円となり前期より大幅に増加しました。



□ 受注高 ■ 売上高



■ 営業損益



## 車両事業のプロフィール

車両部門は、新幹線電車から、特急電車、通勤電車、地下鉄電車、モノレール、新交通システムにいたる、各種鉄道車両を手掛けています。また、アメリカ唯一の鉄道車両一貫製造工場を有し、年産200両の能力をもって本格稼働しており、世界の車両需要にえています。

建設機械部門は、ホイールローダをはじめとして、各種転圧機械、坑内用機械、さらに除雪機など、国土開発に貢献する様々な製品を相次いで開発・製品化しています。その販売先は、国内はもとより、米国やアジア、ヨーロッパ各国など世界各地に拡大しています。



台北地下鉄電車



ホイールローダ「115ZV-2」

当期の概況

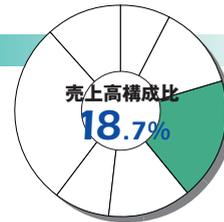


ボーイング787ドリームライナー

受注高は、ボーイング777型旅客機分担製造品を中心に民需が増加したことなどにより、2,556億円となり前期より増加しました。

売上高は、次期固定翼哨戒機・次期輸送機開発案件及びボーイング777型旅客機分担製造品の増加などにより、2,691億円となり前期より大幅に増加しました。

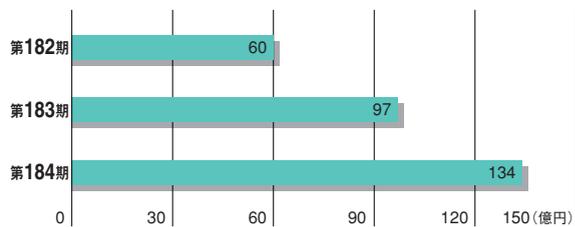
営業利益は、売上高の増加に伴い、134億円となり前期より増加しました。



□ 受注高 ■ 売上高



■ 営業損益



航空宇宙事業のプロフィール

航空宇宙部門は、わが国を代表する機体メーカーとして、航空機、ヘリコプター等の開発から製造、修理まで手掛けています。

防衛省向けには、主契約企業として次期固定翼哨戒機 (P-X) 及び次期輸送機 (C-X) の国産開発を進めているほか、掃海・輸送並びに南極輸送支援用ヘリコプター、国産観測ヘリコプター OH-1 など多彩な機種種の製造、修理を手掛けています。

民需製品においては、現在、米国ボーイング社と新型旅客機 787 ドリームライナーの共同開発を進めています。また、ボーイング777型旅客機などの分担製造や、わが国最初の国産開発ヘリコプターであるBK117の製造販売など、幅広く事業を展開しています。



次期固定翼哨戒機 (P-X)



次期輸送機 (C-X)

当期の概況

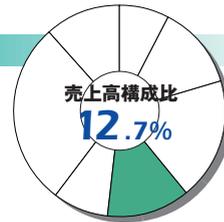


Trent1000 Courtesy of Rolls-Royce

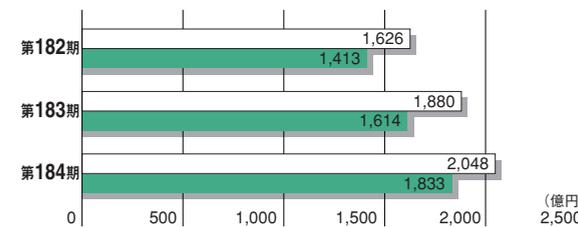
受注高は、民需向け産業用ガスタービン、民需航空機用エンジン分担製造品、天然ガス圧送設備などの受注により、2,048億円となり前期より増加しました。

売上高は、ガスタービン発電設備、船用蒸気タービン主機関、民需航空機用エンジン分担製造品の増加などにより、1,833億円となり前期より増加しました。

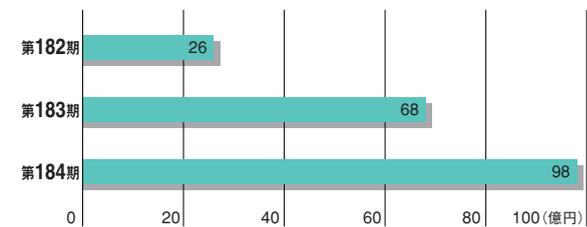
営業利益は、売上高の増加に伴い、98億円となり前期より大幅に増加しました。



□ 受注高 ■ 売上高



■ 営業損益



ガスタービン・機械事業のプロフィール

ガスタービン部門では、ジェットエンジン、船用ガスタービン、ガスタービン発電設備など、様々なガスタービン製品を幅広く取り扱っています。V2500、トレントなどの国際共同開発事業へ参画し、グローバルに事業を展開するとともに、高効率なコージェネレーションシステムの開発など、環境適合性に優れた製品で地球環境に貢献しています。また、非常用ガスタービン発電設備の分野では、高い信頼性から常にトップシェアを堅持しています。

機械部門では、LNG船用蒸気タービン主機関、ディーゼル主機関及び推進用プロペラ等、船用推進機械全般を手掛ける一方で、陸上分野でも発電用蒸気タービンや天然ガス圧送設備、風洞装置等を取り扱っており、幅広い事業を展開しています。



L20Aガスタービン



船用蒸気タービン

当期の概況

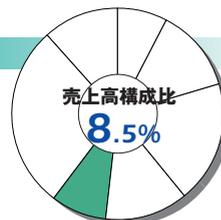


中国向け120MWガスタービン複合発電プラント (CCPP)

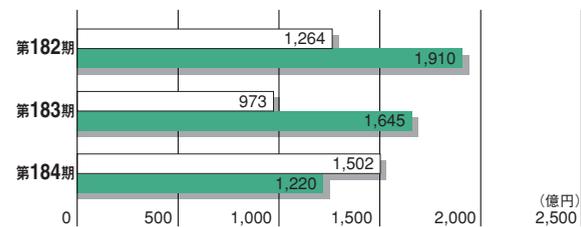
受注高は、海外においてセメントプラント、フェロニッケル精錬プラント、トンネル掘削機などの受注により、1,502億円となり前期より大幅に増加しました。

売上高は、各種プラント、風力発電設備、シールド掘進機などを納入したものの、1,220億円となり前期より大幅に減少しました。

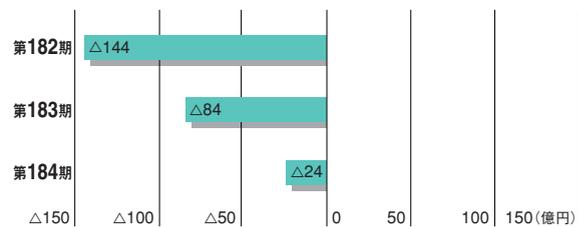
営業損益は、プラント部門が大幅に好転したものの、セグメントとしては、24億円の損失となりました。



□ 受注高 ■ 売上高



■ 営業損益



プラント・環境・鉄構事業のプロフィール

プラント部門は、セメントプラント、化学プラントをはじめとした「産業プラント」、発電プラントを中心とした「エネルギープラント」など、様々なプラントの計画、設計から、建設、試運転まで一貫して手掛けております。

環境部門は、廃棄物や汚水の処理にも積極的に取り組み、都市ごみや産業廃棄物の焼却プラント、下水処理・污泥焼却プラントなど、幅広く環境保全設備を手掛けています。

平成19年度よりプラント・環境部門を統合し、カワサキプラントシステムズ(株)として更なる飛躍を目指してまいります。

鉄構部門は、豊かな経験と高度な技術力により、LNGタンクなどの各種貯蔵施設、シールド掘進機、ロケット組立発射設備、空港関連設備、各種鋼構造製品など、多岐にわたる製品を手掛け、信頼性の高い社会資本を提供しています。

岸和田市貝塚市清掃施設組合向けごみ処理施設及びリサイクル施設



LNGタンク

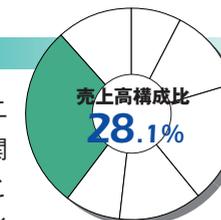
当期の概況



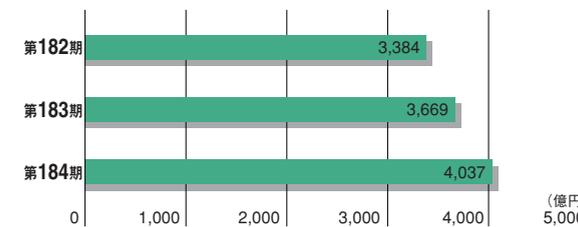
Ninja ZX-6R

売上高は、米国・欧州等の先進国向け二輪車の販売増に加え、自動車及び半導体関連等の産業用ロボットの売上も増加したことなどにより、4,037億円となり前期より増加しました。

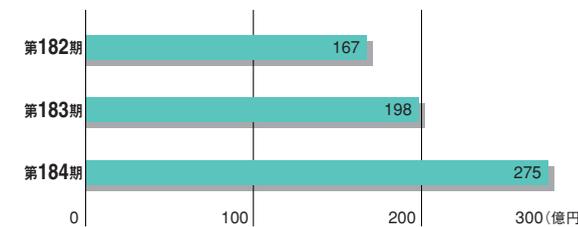
営業利益は、275億円となり前期より大幅に増加しました。



■ 売上高



■ 営業損益



汎用機事業のプロフィール

汎用機部門は、モーターサイクル、ATV(四輪バギー)、Jet Ski<sup>®</sup>などのレジャー製品から多用途四輪車MULE、汎用ガソリンエンジンまで、一般消費者向けの様々な製品・事業を展開しています。なかでも、スーパースポーツ「Ninja ZX-10R」「Ninja ZX-6R」をはじめとする各種モーターサイクルは、個性と性能の高さで世界中のライダーの熱烈的な支持を得ており、「Kawasaki」ブランドの高性能イメージ高揚に貢献しています。

ロボット部門は、1969年に日本で初めて産業用ロボットを国産化して以来、組立・ハンドリング、溶接、塗装、半導体製造などの多様なニーズに的確に対応し、卓越した技術と高い信頼性で、常に業界をリードしています。



MULE 3010 Trans4x4 Diesel

クリーンロボット「NX540」

当期の概況



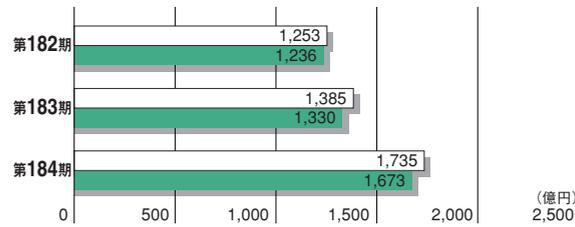
超小型カメラ安定装置

売上高は、中国向けが引き続き好調な油圧機器部門が高水準で推移したことにより、1,673億円となり前期より大幅に増加しました。

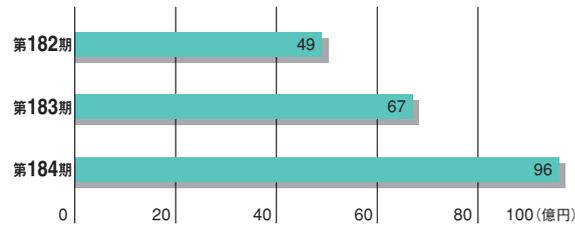
営業利益は、96億円となり前期より大幅に増加しました。



□ 受注高 ■ 売上高



■ 営業損益



その他事業のプロフィール

(株)カワサキプレジジョンマシナリは、油圧ポンプ、モータ、バルブなどの建設機械用油圧機器をはじめ、産業機械用各種油圧装置、甲板機械、電動舵取機などの各種船用油圧装置にいたるまで、幅広く生産しています。また最新の電気・電子制御技術を生かした製品も市場に提供しています。今後も優れた研究陣と実験設備をもって、常により新しい技術と製品の開発に取り組み、品質の向上、製品の安定供給に注力していきます。

また、主な「その他事業」としては、川重商事(株)、(株)カワサキライフコーポレーションが、それぞれ商業や福利施設管理等の諸事業を営んでおります。

建設機械用各種油圧機器



新浦安社宅

人や環境に優しい製品の開発でエネルギー利用の未来を拓く

—大型ニッケル水素電池「ギガセル®」への期待—

産業や生活のベースとなるエネルギーの96%を輸入に頼っている日本は、石油危機後のエネルギー政策として石油に代わるエネルギー源を開発し、さらに環境負荷の小さいエネルギーの導入を進めています。

2005年2月の京都議定書発効により、CO<sub>2</sub>を排出しないエネルギーとして風力や太陽光を利用した発電は、従来以上に注目を集めるようになりましたが、これらの自然エネルギーの利用は、天候などにより発電能力の変動が大きいため、需給バランスを保つのが難しく、大規模な運用にも制約がつくなどの問題がありました。

自然エネルギーの不安定さを補う「ギガセル®」の開発

川崎重工が開発した大型ニッケル水素電池「ギガセル®」は、鉛やナトリウム、リチウムのような有害物、危険物を使用せず、また、大容量かつ高出力で自然エネルギーの不安定さを補うことができる新型電池です。

「ギガセル®」は、環境適合性や安全性に優れているうえ、分解が容易な構造でリサイクル性にも優れているため、様々な分野から注目されています。



[写真上] 定置型スタック



[写真右] 移動体用ギガセル®

次世代LRV「SWIMO」への車載用「ギガセル®」の実用化

「ギガセル®」を搭載した製品の一例として、川崎重工が開発中の次世代LRV「SWIMO」があります。昨年8月には、路面電車の電池駆動走行試験に成功しました。

「SWIMO」は、車載用「ギガセル®」を搭載し、回生電力\*を利用することによりエネルギー効率を飛躍的に高め、低床バリアフリー構造を採用した、人にも地球にも優しい車両です。

走行試験の成功により、「SWIMO」への「ギガセル®」搭載に目処をつけました。現在、実験車両を製作中で、2007年内の初号車(実験車両)完成を目指しています。



[写真上] 架線不要のLRV(低床電池駆動路面電車)「SWIMO(スイモ)」(開発中)

川崎重工は今後も技術開発を重ね、人や環境に優しい製品の開発を通じて、地球環境の改善に貢献していきます。

\* 回生電力：ブレーキ時にモータを発電機として発生させた電力

## 連結貸借対照表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成19年3月31日現在	平成18年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>961,917</b>	<b>915,899</b>
現金及び預金	39,350	37,650
受取手形及び売掛金	428,588	422,551
たな卸資産	427,934	383,016
その他	70,317	76,510
貸倒引当金	△ 4,273	△ 3,829
<b>固定資産</b>	<b>396,062</b>	<b>368,186</b>
有形固定資産	253,819	246,219
建物及び構築物	97,385	92,674
機械装置及び運搬具	62,307	59,982
土地	66,502	65,732
その他	27,623	27,830
無形固定資産	15,128	15,795
投資その他の資産	127,114	106,171
投資有価証券	65,327	56,423
その他	63,259	53,612
貸倒引当金	△ 1,472	△ 3,865
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>806,506</b>	<b>802,659</b>
支払手形及び買掛金	412,501	409,942
短期借入金	118,463	133,627
前受金	124,444	98,589
その他	151,096	160,499
<b>固定負債</b>	<b>256,095</b>	<b>238,330</b>
社債	80,826	103,062
長期借入金	84,927	53,994
その他	90,342	81,273
<b>負債合計</b>	<b>1,062,602</b>	<b>1,040,989</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>—</b>	<b>5,507</b>
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	<b>—</b>	<b>92,084</b>
資本剰余金	—	42,094
利益剰余金	—	100,775
その他有価証券評価差額金	—	14,097
為替換算調整勘定	—	△ 11,426
自己株式	—	△ 38
<b>資本合計</b>	<b>—</b>	<b>237,588</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>—</b>	<b>1,284,085</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>282,110</b>	<b>—</b>
資本金	103,187	—
資本剰余金	53,179	—
利益剰余金	125,798	—
自己株式	△ 55	—
<b>評価・換算差額等</b>	<b>8,317</b>	<b>—</b>
その他有価証券評価差額金	19,342	—
繰延ヘッジ損益	△ 1,607	—
為替換算調整勘定	△ 9,417	—
<b>少数株主持分</b>	<b>4,949</b>	<b>—</b>
<b>純資産合計</b>	<b>295,377</b>	<b>—</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,357,979</b>	<b>1,284,085</b>

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成19年3月31日現在	平成18年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>806,506</b>	<b>802,659</b>
支払手形及び買掛金	412,501	409,942
短期借入金	118,463	133,627
前受金	124,444	98,589
その他	151,096	160,499
<b>固定負債</b>	<b>256,095</b>	<b>238,330</b>
社債	80,826	103,062
長期借入金	84,927	53,994
その他	90,342	81,273
<b>負債合計</b>	<b>1,062,602</b>	<b>1,040,989</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>—</b>	<b>5,507</b>
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	<b>—</b>	<b>92,084</b>
資本剰余金	—	42,094
利益剰余金	—	100,775
その他有価証券評価差額金	—	14,097
為替換算調整勘定	—	△ 11,426
自己株式	—	△ 38
<b>資本合計</b>	<b>—</b>	<b>237,588</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>—</b>	<b>1,284,085</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>282,110</b>	<b>—</b>
資本金	103,187	—
資本剰余金	53,179	—
利益剰余金	125,798	—
自己株式	△ 55	—
<b>評価・換算差額等</b>	<b>8,317</b>	<b>—</b>
その他有価証券評価差額金	19,342	—
繰延ヘッジ損益	△ 1,607	—
為替換算調整勘定	△ 9,417	—
<b>少数株主持分</b>	<b>4,949</b>	<b>—</b>
<b>純資産合計</b>	<b>295,377</b>	<b>—</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,357,979</b>	<b>1,284,085</b>

連結損益計算書 連結キャッシュ・フロー計算書  
連結株主資本等変動計算書

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
売上高	1,438,618	1,322,487
売上原価	1,213,524	1,148,547
売上総利益	225,094	173,940
販売費及び一般管理費	155,952	132,145
<b>営業利益</b>	<b>69,141</b>	<b>41,794</b>
営業外収益	12,496	11,119
営業外費用	32,585	22,029
<b>経常利益</b>	<b>49,052</b>	<b>30,885</b>
特別利益	—	13,177
特別損失	3,785	20,762
税金等調整前当期純利益	45,267	23,300
法人税、住民税及び事業税	16,622	24,147
法人税等調整額	△ 1,336	△ 17,842
少数株主利益	209	528
<b>当期純利益</b>	<b>29,771</b>	<b>16,467</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当期	前期
	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,859	45,760
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 43,312	△ 36,510
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,306	△ 16,720
現金及び現金同等物に係る換算差額	481	703
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	1,722	△ 6,767
現金及び現金同等物の期首残高	37,505	44,385
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少高	—	△ 112
現金及び現金同等物の期末残高	39,228	37,505

## 連結株主資本等変動計算書

当期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	92,084	42,094	100,775	△38	234,917	14,097	—	△11,426	2,671	5,507	243,096
<b>当期中の変動額</b>											
新株の発行	11,102	11,083	—	—	22,186	—	—	—	—	—	22,186
剰余金の配当	—	—	△4,672	—	△4,672	—	—	—	—	—	△4,672
役員賞与	—	—	△13	—	△13	—	—	—	—	—	△13
当期純利益	—	—	29,771	—	29,771	—	—	—	—	—	29,771
自己株式の取得	—	—	—	△71	△71	—	—	—	—	—	△71
自己株式の処分	—	—	—	54	55	—	—	—	—	—	55
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)	—	—	△62	—	△62	—	—	—	—	—	△62
<b>当期中の変動額合計</b>	<b>11,102</b>	<b>11,084</b>	<b>25,022</b>	<b>△17</b>	<b>47,193</b>	<b>5,244</b>	<b>△1,607</b>	<b>2,009</b>	<b>5,646</b>	<b>△557</b>	<b>5,088</b>
平成19年3月31日残高	103,187	53,179	125,798	△55	282,110	19,342	△1,607	△9,417	8,317	4,949	295,377

単独貸借対照表  
単独損益計算書

単独貸借対照表

科目	(単位：百万円)	
	当期 平成19年3月31日現在	前期 平成18年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	627,271	630,321
固定資産	310,997	286,750
有形固定資産	134,805	130,830
無形固定資産	9,820	9,459
投資その他の資産	166,371	146,460
資産合計	938,269	917,072
<b>負債の部</b>		
流動負債	518,756	547,704
固定負債	176,383	168,808
負債合計	695,139	716,513
<b>資本の部</b>		
資本金	—	92,084
資本剰余金	—	39,910
利益剰余金	—	55,598
株式等評価差額金	—	12,993
自己株式	—	△ 28
資本合計	—	200,558
負債・資本合計	—	917,072
<b>純資産の部</b>		
株主資本	226,382	—
資本金	103,187	—
資本剰余金	50,995	—
利益剰余金	72,244	—
自己株式	△ 45	—
評価・換算差額等	16,747	—
純資産合計	243,129	—
負債・純資産合計	938,269	—

単独損益計算書

科目	(単位：百万円)	
	当期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	919,655	845,957
売上原価	809,058	768,191
販売費及び一般管理費	63,510	47,621
営業利益	47,086	30,144
営業外収益	10,403	11,715
営業外費用	23,609	18,488
経常利益	33,879	23,371
特別利益	—	12,901
特別損失	3,785	20,626
税引前当期純利益	30,094	15,645
法人税、住民税及び事業税	7,925	13,869
法人税等調整額	850	△ 11,849
当期純利益	21,319	13,625

単独株主資本等変動計算書

単独株主資本等変動計算書

当 期 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)	株主資本						評価・換算 差額等	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式			株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	その他利益剰余金	その他利益剰余金				
平成18年3月31日残高	92,084	39,861	48	55,598	△28	187,565	12,993	200,558	
当期中の変動額									
新株の発行	11,102	11,083				22,186	—	22,186	
剰余金の配当 (注)				△4,672		△4,672	—	△4,672	
当期純利益				21,319		21,319	—	21,319	
自己株式の取得					△71	△71	—	△71	
自己株式の処分			1		54	55	—	55	
株主資本以外の項目の当期中の変動額 (純額)						—	3,754	3,754	
当期中の変動額合計	11,102	11,083	1	16,646	△17	38,816	3,754	42,571	
平成19年3月31日残高	103,187	50,945	49	72,244	△45	226,382	16,747	243,129	

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目である。

トップページ



投資家の皆様へ

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家のみなさま向けに、さらに詳しい財務関連情報を掲載しております。また、企業情報や環境への取り組みなど幅広い内容となっておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.khi.co.jp>

会社概要・役員  
株式の状況・大株主・株主メモ

■ 会社概要 (平成19年3月31日現在)

創 立 明治29年10月15日  
資 本 金 103,187,577,986円  
従 業 員 9,795名  
本 社 (神戸) 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号  
(東京) 東京都港区浜松町2丁目4番1号

■ 役 員 (平成19年6月27日現在)

取締役会長	田 崎 雅 元	執行役員	大 山 正 俊
取締役社長	大 橋 忠 晴	執行役員	能 勢 修 一
取締役副社長	寺 崎 正 俊	執行役員	中 野 民 雄
取締役副社長	松 崎 昭	執行役員	堀 川 英 嗣
常務取締役	元 山 近 思	執行役員	服 部 晃
常務取締役	野 口 二 郎	執行役員	浅 野 雄 一
常務取締役	瀬 川 雅 司	執行役員	鈴 木 伸 一
常務取締役	丹 波 晨 一	執行役員	山 口 徹
常務取締役	三 原 修 二	執行役員	村 山 滋
常務取締役	長谷川 聰	執行役員	高 尾 光 俊
監 査 役	上 田 忠 男	執行役員	木野内 総 介
監 査 役	田 上 朗	執行役員	河 村 義 雄
監 査 役	川 本 洋	執行役員	松 岡 京 平
監 査 役	土 井 憲 三	執行役員	山 下 清 司
執 行 役 員	浜 田 滋	執行役員	菅 原 健 史
執 行 役 員	天 江 文 昭	執行役員	上 田 澄 広
執 行 役 員	三 嶋 和 彦	執行役員	金 森 涉

■ 株式の状況 (平成19年3月31日現在)

発行可能株式総数 3,360,000,000株  
発行済株式総数 1,659,625,876株  
株主総数 145,590名

■ 大株主 (平成19年3月31日現在)

株主名	所有株式数	比率
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	86,387,000株	5.20%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	77,732,000株	4.68%
株式会社みずほ銀行	57,443,650株	3.46%
JFEスチール株式会社	56,174,400株	3.38%
日本生命保険相互会社	54,016,659株	3.25%
東京海上日動火災保険株式会社	50,197,589株	3.02%
川崎重工業従業員持株会	33,198,296株	2.00%
川崎重工共栄会	28,924,192株	1.74%
日本興亜損害保険株式会社	27,521,999株	1.65%
株式会社三井住友銀行	26,828,453株	1.61%

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月下旬  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日  
株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 〒541-0041  
大阪市中央区北浜二丁目2番21号  
TEL：0120-78-2031(フリーダイヤル)  
中央三井信託銀行株式会社  
大阪支店 証券代行部  
同取次所 中央三井信託銀行株式会社  
本店、全国各支店  
日本証券代行株式会社  
本店、全国各支店

●表紙写真

LNG運搬船「エネルギー プロGRESS」

本船は、株式会社川崎造船が開発し国内外の顧客から高い評価を受けている145,000m<sup>3</sup>型LNG運搬船の第7番船にあたります。平成18年11月に株式会社商船三井の子会社であるJOVIAL SHIPPING S.A.へ引き渡され、主に東南アジアから日本へのLNG輸送に従事しています。

ご案内

<住所変更の手続きについて>

新市制の施行や町村合併、住居表示の変更又は転居などにより、ご住所が変更になったときは、株主名簿の変更手続きが必要となります。手続きをお忘れになると株主総会招集ご通知や配当金などのお受け取りができなくなりますので、お早めにお手続きいただきますようお願いいたします。

<郵便貯金口座配当金受取サービスについて>

配当金のお受け取りは、銀行口座に加え、郵便貯金口座(通常貯金口座)へのお振込も可能です。ご希望の株主様は、下記株主名簿管理人あて配当金振込指定書をご請求のうえお申し込みください。

○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)

中央三井信託銀行株式会社証券代行部(証券代行事務センター)  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
TEL：0120-78-2031(土日祝日を除く 午前9時～午後5時)

◆住所変更、名義書換請求などに必要な用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル **0120-87-2031** で24時間受付しております。

切り取ってご利用下さい

川崎重工業株式会社

ご来場の際は本券を切り離してご持参下さい

ご利用日	年	月	日
ご利用内訳	大人	名	
	小人	名	

見本

楽しく体験！陸・海・空のテクノロジーワールド。

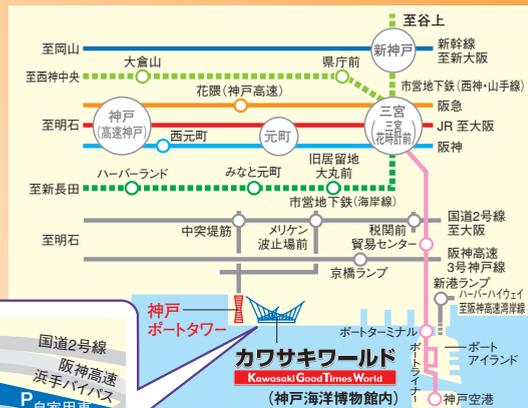
# カワサキワールド

## Kawasaki GoodTimes World

平成18年5月に神戸海洋博物館内にオープンした「カワサキワールド」は、年間来場者数が24万人に達しました。

「カワサキワールド」では、当社の陸・海・空にわたる製品とともに、楽しく学び、遊びながら「技術の素晴らしさ」、「ものづくりの大切さ」を実感していただくことを目指しています。

どうぞ一度ご覧いただき、ゆっくり「カワサキワールド」をお楽しみください。



- 飛行機で「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で  
市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分  
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分  
神戸高速（阪急・山陽）「花隈駅」から徒歩約15分
- シティループで  
「地下鉄三宮駅前（西行）」乗車約15分  
「中突堤（ポートタワー前）」下車徒歩1分
- 車・タクシーで  
JR・阪神・阪急「三宮駅」から約10分  
JR・阪神「元町駅」から約5分  
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分  
ハーバーハイウェイ「新港ランプ」から約5分  
※周辺には駐車場（有料）があります。

### 神戸海洋博物館入館料

大人	500円	小人(小中学生)	250円
----	------	----------	------

(※) 入館料には、各種割引があります。

(※) カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

**開館時間** 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

**休館日** 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日に休館）  
年末年始（12月29日から1月3日）

**お問い合わせ** 神戸海洋博物館 TEL:078-327-8983 FAX:078-332-4739  
<http://www.khi.co.jp/kawasakiworld/>

バーチャルツアーで館内の様子が見られます。

# カワサキワールド

## Kawasaki GoodTimes World

株主様ご招待券（3名様無料）

平成20年3月31日まで有効

見  
本

川崎重工業株式会社

TEL：078-371-9533（総務部株式担当）



この報告書は古紙100%、白色度82%の再生紙を使用し、VOC（揮発性有機化合物）の発生が少ない植物性の大豆油インキで印刷しています。